

## 神が私たちとともにおられる

マタイの福音書 1章 18-25節

### はじめに

今日からクリスマスを待ち望む「アドベント（待降節）」に入りますので、今日からイエス様の誕生にまつわる出来事から説教をしていきたいと思います。

今日の聖書箇所には、イエス様がどのような経緯で生まれてきたのかが書かれていますが、特に母マリアの夫である「ヨセフ」の立場から書かれています。

イエス様は、母マリアと夫のヨセフが婚約中に、聖霊によってマリアのお腹に宿ったのです。当時は、婚約した男女は正式な夫婦となります。ですからマリアは妻と呼ばれ、ヨセフは夫と呼ばれています。しかし実際に一つ屋根の下で一緒に生活するのは、約一年間の婚約期間を経た後であったようです。ですからイエス様が、聖霊によってマリアのお腹に宿ったのは、マリアとヨセフがまだ一緒に生活していない時であったのです。

ある時、マリアのもとに御使いガブリエルが現れて、「あなたは聖霊によって身ごもり、イエスという神の子を産む」と言われるのです。マリアは最初、戸惑いましたが、信仰によってこのことを神様の御心として受け止めていったのです。

### 1. 正しい人ヨセフの苦悩

しかし夫のヨセフは最初、このことを受け止められませんでした。おそらくヨセフは、マリアからこの出来事を聞いたのでしょう。18節にはこうあります。「**イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。**」

ヨセフはこの時、御使いガブリエルに会っていません。マリアが聖霊によって身ごもったということを、マリアの口から聞いたただけでした。ですからヨセフは最初、このことを信じられなかったのです。マリアを疑ったのです。マリアが婚約中に、ヨセフ以外の男性の子どもを身ごもったと思ったのです。ヨセフには全く身に覚えがなかったからです。

19節には、「**夫のヨセフは正しい人**」であったと書かれています。ここでの「正しい人」というのは、「聖書の律法を厳格に守る人」という意味です。ヨセフは真面目な人でした。おそらく無口な人でもあったと思います。聖書の中に、ヨセフの言葉は一つも書かれていません。

ヨセフは、マリアの言葉を信じられず、マリアは他の男性の子どもを身ごもったと思い込んでいました。そのため、ひどく落ち込んだと思います。しかし彼は、律法を厳格に守る「正しい人」でした。彼は、ひどく落ち込みながらも、これからの二人のことを、律法

に従って考えていこうとするのです。

律法には、婚約中の女性が他の男性と姦淫を犯した場合、石を投げて殺されなければならないとあります（申命記 22：23-24）。ヨセフは、マリアが他の男性と姦淫を犯して子どもを身ごもったと思い込んでいますから、もしヨセフが怒りに身を任せるなら、マリアを死刑にしようとすることもできたのです。

しかし 19 節には、「**夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしなかつたので、ひそかに離縁しようと思った**」とあります。ヨセフは怒りに任せてマリアを死刑にしようとは考えませんでした。他の律法には、「**人が妻をめとり夫となった後で、もし、妻に何か恥ずべきことを見つけたために気に入らなくなり、離縁状を書いてその女に渡し、彼女を家から去らせ**」（申命記 24：1）ることができるというものもあります。ヨセフは、怒りに任せてマリアを死刑にしようとするのではなく、離縁状を書いて、ひそかに離縁しようと考えたのです。これが、マリアを愛し、律法を厳格に守る「正しい人」であるヨセフにとっての精一杯の決断だったのです。

私たちはここで、イエス様の誕生の背景には、婚約中であったマリアとヨセフの婚約解消の危機、離縁（離婚）の危機があったことを知るのであります。マリアは夫のヨセフに信じてもらえない悲しみがあったでしょう。ヨセフはマリアを信じられず、裏切られたと思い込み、深い悲しみの中にあっただしょう。すれ違う二人は、別れる寸前であっただのです。

## 2. ヨセフの信仰

そのような時に、御使いが夢の中でヨセフに現れてこう言うのです、「**ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです**」。

マリアとヨセフは、別れる寸前でした。二人のすれ違う関係は、二人だけでは解決できなかったのです。ヨセフは、律法を厳格に守る「正しい人」でした。しかしヨセフの「正しさ」は、二人の関係を解決するのに何の役にも立ちませんでした。ヨセフはおそらく真面目で優しい人でした。しかしそのような彼でも、婚約を解消する、離縁（離婚）することしか思い浮かばなかったのです。ここに彼の「正しさ」の限界があるのです。

二人の間に御使いが遣わされて、神様が介入した時に、二人の信頼関係は回復し、解決へと導かれていったのです。ヨセフはマリアを信じることができ、マリアを妻として迎え入れていくことができたのです。神様が二人の間に入ってくださらなければ、おそらく二人は別れていたと思います。

ヨセフは、マリアだけを見ていた時には、マリアの言葉を信じられず、すれ違うだけでした。しかし御使いを通してヨセフが神様を見上げた時、マリアの言葉を信じられるようになったのです。マリアの言葉と御使いの言葉が一致していたからです。

しかしヨセフには、御使いの言葉を信じないで、そのままマリアと婚約を解消して、離

縁（離婚）することもできたはずですが。しかしヨセフは、御使いの言葉を「神様の言葉」と信じて、マリアの言葉も信じて、マリアを妻として迎え入れたのです。つまりヨセフは、「信仰」によってマリアを妻として迎え入れる決断をしたのです。

私たちがここから教えられることは、人間同士の関係は常に危ういものだということです。ちょっとしたすれ違いで、お互いを信じられなくなることもあるのです。そのような時には、私たちの真面目さや優しさ、また宗教的な「正しさ」が何の役にも立たない時があります。私たちの真面目さや優しさ、また宗教的な「正しさ」には限界があるのです。

私たちはいつも神様を見上げなければなりません。「神様の御言葉」に耳を傾けなければなりません。そして「神様の御言葉」に基づく「信仰」に立たなければなりません。

「信仰」は、私たちに希望を与えてくれます。そして恐れや不安を取り除いてくれます。私たちは、人間的な真面目さや優しさや宗教的な「正しさ」ではなく、「神様の御言葉」に基づいた「信仰」に立ち、「信仰」によって決断し、「信仰」によって問題を乗り越えていかなければならないのです。私たちの人生には、「信仰」によらなければ、乗り越えられない問題がたくさんあるのです。逆に言えば、私たちは問題を通して、「信仰」の力を経験するのです。

### **3. 罪からの救い主イエス**

そもそもなぜイエス様は、「聖霊によって」「マリアから」生まれなければならなかったのでしょうか。このことがなければ、マリアとヨセフがすれ違うこともなかったのです。

しかしイエス様は、どうしても「聖霊によって」「マリアから」生まれなければならなかったのです。それは、私たちが罪から救うためです。

私たち人間は、アダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、神様との交わりを失い、「罪」に支配されて生きています。「罪」とは何でしょうか。「罪」とは、神様を愛さないこと、また人を愛さないことです。そして自分だけを愛して生きることです。つまり自己中心に生きることです。すべての人は、生まれた時からこのような罪の性質を持っていて、その罪のゆえに、人生でのあらゆる悲しみや苦しみを経験し、死後には地獄の刑罰を受ける存在となったのです。すべての人は、罪に支配されていて、罪から救われる必要があるのです。

イエス様は、私たちが罪から救うために、この地上にお生まれになりました。イエス様は、「神の子」でありながら「人」となられたのです。私たち人間が犯した罪は、同じ人間が償わなければなりません。イエス様は、私たちの罪を償うために、「神の子」でありながら「人」となられたのです。

しかし単なる人間では、人間の罪を償い、人間に対する神様の怒りと呪いに耐えることはできません。単なる人間は、自らが罪の性質を持っているので、他の人を救うことなどできません。人間の罪を償い、神様の怒りと呪いに耐え切るためには、罪のない「神の子」でなければなりません。

私たちを罪から救う救い主は、「神の子」でありつつ「人」でなければなりません。そのためイエス様は、「聖霊によって」「マリアから」お生まれになったのです。そして、私たちの罪を償うために、地上の生涯において神様に完全に従い、十字架の死にまでも従われたのです。

マリアとヨセフは、このことを信じたのです。マリアのお腹に宿った子どもは、聖霊によるものであり、私たちを罪から救う救い主であると信じたのです。その信仰に立って、二人は夫婦として一步を踏み出していったのです。

## **おわりに**

私たちもマリアとヨセフのように、マリアのお腹に宿った子どもは、聖霊によるものであり、私たちを罪から救う救い主だと信じることが、神様から求められているのです。私たちはそのことを信じる時に、罪から救われるのです。罪の支配から救われるのです。

「罪の奴隷」であった私たちは、「神様の子ども」とされるのです。

また私たちは、イエス様を信じる時、罪の力から救われます。私たちは「使徒信条」において、「主は聖霊によりて宿り」と告白します。イエス様は、マリアの内に聖霊によって宿られたように、イエス様を信じる私たちの内にも、聖霊によって宿り、私たちと共にいてくださるのです。イエス様は、「**インマヌエル**」と呼ばれる方です。「インマヌエル」とは、「**神が私たちとともにおられる**」という意味です。イエス様は今、聖霊によって私たちとともにいてくださるのです。そして、罪の力からも私たちを救い、私たちを日々成長させ、イエス様に似た者へと変え続けてくださるのです。イエス様は、罪に打ち勝つ力をも与えてくださるのです。

また私たちは、罪の刑罰からも救われます。イエス様を信じる私たちは、死後に天国へと迎えられ、イエス様と共に全き安らぎに包まれます。そして、イエス様がこの地上に再び来られる最後の審判の時にも、神様に無罪と宣告され、栄光の体によみがえらされて、新天新地において神様の栄光をあらわし、永遠に神様を喜んで生きるようになるのです。

私たちは、「信仰」によって生きなければなりません。私たちの真面目さや優しさ、宗教的「正しさ」には限界があります。どんなに真面目でも優しくても、律法を厳格に守っても、罪に対しては何の力もありません。罪からの救いは、イエス様にしかないのです。私たちのために「人」となられた「神の子」、私たちの罪の償いをしてくださったイエス様を信じるしかないのです。

聖書には、「**義人は信仰によって生きる**」(ローマ 1:17)、また「**信仰がなければ、神に喜ばれることはできません**」(ヘブル 11:6)とあります。ぜひ皆さんに、「信仰」によって、罪からの救いを経験し、人生のあらゆる問題を乗り越えていていただきたいと願います。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わしてくださった罪からの救い主イエス様を感謝いたします。マリアとヨセ

フの間にも、信仰の葛藤があったことを覚えます。私たちも自らの救いのためにも、信仰を持ち、また人生のあらゆる問題においもて、信仰によって乗り越えていくことができますように。また私たちの内に聖霊によって宿ってくださっているイエス様に、いつも信頼して歩めるように導いてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。